

よ。

本井 新島は人を見る目がなかったと批判する人がいますね。福沢だったら、これは大物になると思えば手をかけるし、だめなやつは全然相手にしないと。新島はむしろ逆だと。新島があれだけ心かけた人が将来出世してないじゃないかと。

河野 俗にいう出世を新島はあまり望んでいないでしょう。深井に対してだって「社会の役に立つ人間になりなさい」と言っている。働く分野はさまざまであれ、端的にいえば、地の塩、世の光になるように、というのが新島の学生生徒に対する願いであつたし、そのことを卒業生も中退者も程度の差はあれ感じとっていたように思うのです。

それではこの辺で終りにさせていただきます。長時間どうもありがとうございました。

(一九九一年十二月二十四日収録、於有終館担当理事室)

同志社校地出土の埋蔵文化財(21)

だんつきいしぐみあなぐら

段付石組穴蔵

鈴木 重治



江戸時代
同志社女子中・高校静和館地点出土
220 cm × 70 cm × 70 cm

同志社女子中学・女子高校の位置するあたりが、江戸時代に公家の二条家の屋敷であったことはよく知られている。

この周辺での発掘調査は、同志社女子大学や同窓会館・幼稚園地点を含めると、すでに六回に及んでいて、土地利用の変遷を含めて考古学的な資料が蓄積されている。

それらの中には、大量の土器や陶磁器などの遺物に加えて、構築物の一部を示す遺構が含まれている。建物の礎石や井戸なども検出されているが、注目してよいものに、地下式や半地下式の石積の貯蔵庫と考えられた遺構がある。

方形や長方形の平面形態をもつのが一般的で、自然礫や割り石、切り石などを使って石室を構築している。安土・桃山時代から江戸時代の初期の石積み遺構の中には、石材不足を補うためか一石五輪塔などの墓碑を転用している例があるが、社会の安定する江戸時代中期以降では、墓石を転用した例は検出されていない。

切り石を用材とする例の中には、大阪の長堀銅吹所跡の住友家座敷蔵のように、床石を二段に組んだ特殊な遺構もあるが、公家屋敷からの出土例は、床に石材を敷かない例が多い。

写真に示した遺構は、東西方向に長軸をもち、両端にそれぞれ四段の階段を設けた点に特徴があり、天明八年(一七八八)の京都大火後の築造であることが確認されている。

(同志社大学校地学術調査委員会調査主任)